

**IBM SPSS Collaboration and Deployment
Services Enterprise View Driver
バージョン 6 リリース 0**

ユーザーズ・ガイド



お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、13ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services バージョン 6 リリース 0 モディフィケーション 0、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM SPSS Collaboration and Deployment Services
Enterprise View Driver
Version 6 Release 0
User's Guide

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2013.10

© Copyright IBM Corporation 2000, 2013.

目次

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver. 1

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services	
Enterprise View Driver	1
要件	1
Windows ドライバーのインストール	2
Microsoft ODBC データ・ソース・アドミニストレー ターを使用したドライバーの構成	3
サード・パーティーのデータ・ソース	4
Windows ドライバーのアンインストール	4
UNIX ドライバーのインストール	4
UNIX ODBC ドライバーの構成	5

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services	
Enterprise View Driver の構成.	5
ネイティブ・データ・ソースの構成.	7
UNIX ドライバーのアンインストール	8
サイレント インストール	8
IBM SPSS Collaboration and Deployment Services	
Enterprise View URL.	9
既知の制約事項	11

特記事項	13
商標.	14

索引	17
---------------------	-----------

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver

IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver は、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository に保管されている IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View オブジェクトへのアクセスをサード・パーティーのアプリケーションに提供します。

ドライバーは、物理データ・ソースを直接照会せずに、データ・プロバイダー定義 および Application View を参照する点を除いて、標準的なデータベース・ドライバーと同様に動作します。Application View には、定義済みのテーブルと列構造が用意されています。データ・プロバイダー定義 は、論理 Application View テーブルと列を物理データ・ソースのテーブルと列にマップします。

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View オブジェクトの操作情報について詳しくは、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Deployment Manager の資料を参照してください。

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver には、JDBC アクセスおよび ODBC アクセス用のドライバーが用意されています。

要件

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver は、さまざまなオペレーティング・システムにインストールできます。

オペレーティング・システムにかかわらず、ドライバーには約 100MB の使用可能なハード・ディスク・スペースが必要です。

UNIX

- AIX 7.1
- AIX 6.1
- IBM i v7r1
- IBM i v6r1
- SLES 10.x (64 ビットのみ、x64 および s390x プロセッサ)
- SLES 11.x (64 ビットのみ、x64 および s390x プロセッサ)
- RHEL 6.x (64 ビットのみ、x64 および s390x プロセッサ)
- RHEL 5.x (x86 プロセッサ 32 ビット、x64 および s390x プロセッサ 32 および 64 ビット)
- HP-UX 11i v3 (64 ビットのみ、Itanium プロセッサ)
- Solaris 10 (64 ビットのみ、SPARC プロセッサ)

Windows

- Windows Server 2008 R2 64 ビット
- Windows Server 2008 32 ビット

- Windows Server 2008 64 ビット
- Windows Server Standard 2003 R2 32 ビット
- Windows Server Standard 2003 R2 64 ビット
- Windows 7 Enterprise x86
- Windows 7 Professional x86
- Windows 7 Enterprise x64 (32 ビット・コード)
- Windows 7 Professional x64 (32 ビット・コード)
- Windows 7 Enterprise x64 (64 ビット・コード)
- Windows 7 Professional x64 (64 ビット・コード)
- Windows Vista Enterprise x86 SP1
- Windows Vista Business x86 SP1
- Windows Vista Enterprise x64 (32 ビット・コード) SP1
- Windows Vista Business x64 (32 ビット・コード) SP1
- Windows Vista Enterprise x64 (64 ビット・コード) SP1
- Windows Vista Business x64 (64 ビット・コード) SP1
- Windows XP Pro x86 SP3
- Windows XP Pro x64 (64 ビット・コード) SP3
- Windows XP Pro x64 (32 ビット・コード) SP3

Windows ドライバーのインストール

Windows ドライバーをインストールするには、最初に、最新の IBM SPSS Data Access Pack をダウンロードして、インストールします。

手順については、IBM サポート・サイト (<http://www.ibm.com/support/>) を参照してください。例として、以下の説明では、IBM SPSS Data Access Pack は、デフォルトのインストール・ディレクトリー C:\Program Files\SPSSOEM にインストールされると想定します。インストール情報について詳しくは、IBM SPSS Data Access Pack の資料を参照してください。

IBM SPSS Data Access Pack をインストール後、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver をインストールします。インストール・メディアからインストールするには、ディスクの /EV ディレクトリーにある、オペレーティング・システムに適した実行可能ファイルを起動します。インストーラーには、GUI モードとコンソール・モードの 2 つのモードがあります。インストーラーは、デフォルトでは GUI モードを使用します。ただし、`-i console` パラメーターをインストーラーのコマンド・ラインに追加すれば、コンソールを使用してインストールできます。以下に例を示します。

```
setupWindows64-amd64.exe -i console
```

インストール・ウィザードのプロンプトに従い、ドライバーのインストールを完了します。

Microsoft ODBC データ・ソース・アドミニストレーターを使用したドライバーの構成

IBM SPSS Modeler などのアプリケーションは、ネイティブで IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View を認識し、その項目を直接処理できます。ただし、アプリケーションがネイティブで IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View を認識しない場合は、Microsoft ODBC データ・ソース・アドミニストレーターを使用してドライバーを構成する必要があります。次の構成設定は、Microsoft ODBC データ・ソース・アドミニストレーターでの IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver の実装に適用される設定です。

データ・ソース名: 適切なデータ・ソース名を指定します。ODBC アプリケーションは、データ・ソースに対して接続要求を行う際にこのデータ・ソース名を使用します。この名前は、ODBC データ・ソース・アドミニストレーターの「**ユーザー DSN**」セクションに表示されます。

説明: データ・ソースの説明を入力します (オプション)。

ホスト: 接続する IBM SPSS Collaboration and Deployment Services サーバーの名前または IP アドレスのいずれかを入力します。

ポート: IBM SPSS Collaboration and Deployment Services サーバーのポート番号を入力します。

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository へ接続: このオプションを有効にして、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository のユーザー名とパスワードを指定し、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View のオブジェクト情報を取得します (「次へ」をクリックするとアクセスできます)。

ユーザー名: IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository ユーザー名を入力します。このユーザー名には、リポジトリ内の IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View オブジェクトの読み取り権限が必要です。

パスワード: 指定したユーザー名のパスワードを入力します。

1. 「次へ」をクリックして、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View 固有のオブジェクト情報を選択します。

Application View: リポジトリに現在あるすべてのビューのリストから、適切な Application View を選択します。Application View は、ツールまたはアプリケーションでユーザーに表示される情報を制限する手段を提供します。また、システム管理者またはデータ専門家がアプリケーションの視点でデータを表示できるようにします。

環境: ドロップダウン・フィールドに、すべての有効な環境が一覧表示されます。環境設定では、どの特定の列を定義済みのビジネス・セグメントに関連付けるべきかを識別する手段が示されます。例えば、「分析」を選択した場合は、「分析」として定義された Application View 列だけが返されます。また、この設定は「データ・プロバイダー」フィールドに表示される データ・プロバイダー定義 オプションを、選択した環境がサポートするものだけに限定します。

データ・プロバイダー: リポジトリの現在のすべてのリストから、データ・プロバイダー定義 を選択します。データ・プロバイダー定義 は、Application View の論理列定義を顧客データベースの物理テーブル列にマップすることによって、各段階でデータを管理します。データ・プロバイダー定義 はまた、データ・ソースとデータにアクセスするために使用する資格情報を指定します。

ラベル: ドロップダウン・フィールドに、指定された データ・プロバイダー定義 に対して定義されたすべてのラベルがリストされます。ラベルは、特定の IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View オブジェクト・バージョンの識別に役立ちます。例えば、特定の Enterprise View、Application View および データ・プロバイダー定義 に 2 つのバージョンが存在する場合があります。ラベルを使用して、開発環境で使用するバージョンには「**テスト**」のラベルを指定し、実稼働環境で使用するバージョンには「**実働**」のラベルを指定することができます。指定したラベルは、すべての IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View オブジェクトに対して存在する必要があります。

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View オブジェクトの操作情報について詳しくは、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Deployment Manager の資料を参照してください。

サード・パーティーのデータ・ソース

サード・パーティーのデータ・ソース (SQL ネイティブ・クライアントなど) を構成する場合、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver に発生する可能性のある問題を回避するために、いくつかの要件に従う必要があります。

- ODBC データ・ソースの場合、参照先の ODBC データ・ソース名 (DSN) は、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver のインストールされたシステム上にと存在する必要があります。
- DSN を構成する際、タイプ (Oracle、SQL Server、DB2 など) にかかわらず、引用符で囲まれた識別子オプションを有効にする (使用可能な場合)。
- DSN を構成する際、タイプ (Oracle、SQL Server、DB2 など) にかかわらず、適切なデフォルトのデータベース情報を指定する必要がある。

Windows ドライバーのアンインストール

Windows IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver をアンインストールするには、Windows の「コントロール パネル」を使用します。

1. Windows の「コントロール パネル」で、「プログラムの追加と削除」を選択します。
2. 「IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver」エントリーを選択して、「変更と削除」をクリックします。
3. ウィザードのダイアログで「アンインストール」をクリックして、アンインストールを完了します。

UNIX ドライバーのインストール

UNIX ドライバーをインストールするには、最初に、最新の IBM SPSS Data Access Pack をダウンロードしてインストールします。

手順については、IBM サポート・サイト (<http://www.ibm.com/support/>) を参照してください。インストール・メディアから IBM SPSS Data Access Pack をインストールすることもできます。例として、以下の説明では、IBM SPSS Data Access Pack はデフォルトのインストール・ディレクトリー /opt/odbc/ にインストールされると想定します。インストール情報について詳しくは、IBM SPSS Data Access Pack の資料を参照してください。ドライバーをインストールするには、スーパーユーザー権限が必要なことに注意してください。

IBM SPSS Data Access Pack をインストール後、インストール・メディアから、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver をインストールします。以下のようにご使用のシステムに適切なコマンドを使用して、光ディスク・ドライブをマウントします。

- Linux 環境では、次のコマンドを使用します。ここで、<device> は、光ディスク・ドライブに割り当てられたデバイス名です。

```
# mount -r -t iso9660 /dev/<device> /mnt/cdrom
```

- HP-UX 環境では、次のように入力します。

```
# mount -f cdrfs <device path> <mount point>
```

- AIX 環境では、次のように入力します。

```
# mount -rv cdrfs <device path> <mount point>
```

- Solaris では、光学ドライブが自動的にマウントされます。

インストール実行ファイルは、ディスクの /EV ディレクトリーにあります。

インストーラーには、GUI モードとコンソール・モードの 2 つのモードがあります。インストーラーは、デフォルトでは GUI モードを使用します。ただし、-i console パラメーターをインストーラーのコマンド・ラインに追加すれば、コンソールを使用してインストールできます。例えば 32 ビット Linux の場合、コマンドは次のようになります。

```
./setupLinux32-x86.bin -i console
```

インストール・ウィザードのプロンプトに従い、ドライバーのインストールを完了します。ドライバーを構成中にパスを手動で定義する必要があるため、場所のメモを取ってください。デフォルトのパスと同様に、インストール・パスにスペースが含まれている場合は、パスを使用する際にスペースをエスケープするか、パス全体を引用符で囲む必要があります。

UNIX ODBC ドライバーの構成

UNIX ODBC ドライバーの構成では、以下の 2 つの一般的な手順を行います。

1. IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver の構成
2. ネイティブ・データ・ソースの構成

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver の構成

インストールが完了したら、環境を設定して、ドライバー・マネージャーで IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver を登録するために必要ないくつかの手順を手動で行います。

1. 環境設定では、Data Access Pack 構成の環境設定と同様の処理を行います。この処理では、適切なシステム・プロファイルまたはユーザー・プロファイルを変更して、pev セットアップ・スクリプトを「ソースする」呼び出しを含めます。このスクリプトは、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver インストール・ディレクトリー内にあります。次の 2 つのセットアップ・スクリプトが提供されます。

- pev.sh – sh, ash, bash, ksh, zsh (Bourne)
- pev.csh – csh, tcsh (C シェル)

pev.sh セットアップ・スクリプトのソーシングは、Data Access Pack の odbc.sh セットアップ・スクリプト (Data Access Pack のインストール時に追加される) のソーシングと同じです。詳しくは、適切な DataDirect™ の資料を参照してください (<http://www.spss.com/drivers/merant.htm>)。

注: pev.sh スクリプトは IBM SPSS Modeler 始動スクリプト内でソースする必要があります。odbc.sh スクリプトもソースする必要があります。これは、IBM SPSS Modeler 始動スクリプトにすでに存在している可能性があります。odbc.sh スクリプトをソースする呼び出しの後に、pev.sh スクリプトをソースする呼び出しを追加します。詳しくは、「IBM SPSS Modeler ODBC Installation Guide for UNIX」を参照してください。

- pev.sh が正しくソースされていることを確認するために、新規のシェル・セッションからスクリプトをソースして、Bourne シェルの set を入力するか、C シェルのenv を入力します。表示される環境変数のリストで、次の変数のうちの 1 つを確認します。

Linux、Solaris および HP-UX の場合: LD_LIBRARY_PATH

AIX の場合: LIBPATH

この変数の値は、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver インストール・ディレクトリーの参照を含む必要があります。参照が含まれていない場合は、使用している構成に合わせてシェル・スクリプトを編集する必要があります。

シェル・スクリプトは許容可能な Java JNI 環境の検索を試行します。このスクリプトは、標準の Java インストール・ディレクトリーを検索して環境を構成します。検出には時間がかかる場合があります。シェル・スクリプトをソースするために必要な時間を削減するために、スクリプトに PEV_SHARED_LIBRARY_PATH 変数を設定して、検索を回避することができます。この値を前回の実行スクリプトからコピーしておくことを強くお勧めします。IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver インストール・ディレクトリーに加えて、スクリプトには JNI 呼び出しの実行に必要な Java ライブラリーのパスが含まれている必要があります。

2. 任意のエディターで odbcinst.ini ファイル を編集して、DataDirect ドライバー・マネージャーに IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver を登録します。デフォルトでは、このファイルは、Data Access Pack ベース・ディレクトリー (/opt/odbc/) にあります。Data Access Pack がデフォルトの場所にインストールされていない場合は、ODBCINST 環境変数を確認して、odbcinst.ini ファイルの見つかる場所を確認できます。

- 次のテキストを odbcinst.ini ファイルの [ODBC Drivers] セクションに、1 行で追加して、新しいドライバーがインストールされる場所を定義します。

```
IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver=Installed
```

- IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver に関する情報をドライバー・マネージャーに指定します。odbcinst.ini ファイルの最後に以下のセクションを追加します。

```
[IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver]
Driver=libpev-driver.so
APILevel=1
ConnectFunctions=YYY
Driver=libpev-driver.so
DriverODBCVer=3.52
FileUsage=0
SQLLevel=1
```

3. 変更を保存し、エディターを終了します。この時点で、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver は、完全にインストールされ、ドライバー・マネージャーに登録されています。/opt/odbc/bin ディレクトリーにある Data Direct ユーティリティーを使用してインストールを検証できます (32 ビットのインストールの場合は ivtestlib、64 ビットのインストールの場合は ddtestlib)。コマンド・ラインから、/opt/odbc/bin/ivtestlib libpev-driver.so と入力し、**Enter** キーを押します。このテストに失敗した場合は、シェル環境内で、ODBC と IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View スクリプトが正しく「ソース」されていることを確認してください。

ネイティブ・データ・ソースの構成

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View ドライバーを使用するために、ネイティブ・データ・ソースを作成する必要があります。

データ・ソースは、Data Access Pack ベース・ディレクトリー (/opt/odbc/) 内のファイル odbc.ini に追加されます。このファイルが Data Access Pack と共にインストールされる際に、使用可能な各ドライバー用のサンプル・データ・ソースがファイルに取り込まれます。これらは、新しいデータ・ソースを作成するときに従う必要があるテンプレートです。MS SQL Server データ・ソースのエントリーの例を以下に示します。

```
[SQL Server Wire Protocol]
Driver=/qatest/ODBC/SDAP_6.10.000.6_March2012/lib/XEsq1s25.so
Description=IBM Corp. 6.1 SQL Server Wire Protocol
AlternateServers=
AlwaysReportTriggerResults=0
AnsiNPW=1
ApplicationName=
ApplicationUsingThreads=1
AuthenticationMethod=1
BulkBinaryThreshold=32
BulkCharacterThreshold=-1
BulkLoadBatchSize=1024
BulkLoadOptions=2
ConnectionReset=0
ConnectionRetryCount=0
ConnectionRetryDelay=3
Database=<database_name>
EnableBulkLoad=0
EnableQuotedIdentifiers=0
EncryptionMethod=0
FailoverGranularity=0
FailoverMode=0
FailoverPreconnect=0
FetchTSWTZasTimestamp=0
FetchTWFSasTime=1
GSSClient=native
HostName=<SQL_Server_host>
HostNameInCertificate=
InitializationString=
Language=
LoadBalanceTimeout=0
LoadBalancing=0
LoginTimeout=15
LogonID=
MaxPoolSize=100
MinPoolSize=0
PacketSize=-1
Password=
Pooling=0
PortNumber=<SQL_Server_server_port>
QueryTimeout=0
ReportCodePageConversionErrors=0
SnapshotSerializable=0
TrustStore=
TrustStorePassword=
ValidateServerCertificate=1
WorkStationID=
XML Describe Type=-10
```

データ・ソースの定義には 2 つのステップがあります。

1. 最初の手順では、新しいデータ・ソースの名前と説明を定義します。これは、[ODBC Data Sources] 見出しの下にあるファイルの先頭で行います。<DSN>=<description> 形式で新規のデータ・ソースを追加します。DSN は、データ・ソースを参照するために、外部アプリケーションが使用する名前です。description は、さまざまなデータ・ソースの識別や区別を行うために役立ちます。
2. 次の手順では、odbc.ini ファイルに新しいセクションを追加することによって、ドライバー固有の設定を構成します。セクションの見出しは、データ・ソースを定義したときにファイルの先頭で選択したデータ・ソース名と一致する必要があります。構成セクションでシステムに必要なエントリーは、ドライ

バーの場所のみです。慣例により、これはセクションの最初のエントリーになり、形式は `Driver=<driver_location>` となります。それ以外のエントリーは、ドライバー固有のもので、必須の項目もあれば、必須でない項目もあります。

すべてのネイティブ・データ・ソースを定義すると、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver を使用することができます。

データ・ソースを IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver で使用する場合は、引用符付きの識別子をネイティブ・ドライバーで有効にする必要があります。上記の例では、SQL Server ドライバーには、エントリー `EnableQuotedIdentifiers=0` (デフォルト値) が含まれています。このエントリーを、`EnableQuotedIdentifiers=1` に変更する必要があります。このエントリー名は、ドライバーのタイプによって異なる場合があることに留意して、この設定に対するドライバー構成オプションを確認してください。

注: QEWSO パラメーターの値は、システムによって生成されます。既存のドライバー定義からコピーしないでください。

UNIX ドライバーのアンインストール

UNIX IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver をアンインストールするには、以下を実行します。

1. IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver インストール・ディレクトリ内の `_uninst` ディレクトリーにナビゲートします。
2. `_uninst` ディレクトリーから `.uninstall` を起動します。
3. IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver をアンインストールしたら、5 ページの『IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver の構成』セクションに追加されている設定を手動で削除します。

サイレント インストール

サイレント・モードでは、ユーザーが対話することなくインストールを行うことができます。インストール・パラメーターは、プロパティー・ファイルとして指定します。この機能を使用して、大規模ネットワーク環境におけるアプリケーションのインストールを自動化できます。

インストール・ディスク 2 には、サイレント・インストールを使用可能にするプロパティー・ファイルが含まれています (`/Administration/<製品名>/SilentInstallOptions`)。

オプション・ファイルの使用方法

1. オプション・ファイルをメディアからファイル・システムにコピーします。
2. テキスト・エディターでコピーされたオプション・ファイルを開きます。
3. 必要に応じてオプションを変更します。文字列の値が必要なオプションと、インストーラーの選択内容に対応し、0 (オフ) または 1 (オン) に設定できるオプションがあります。

サイレント・インストールを実行するには

コマンド・ラインから、以下のスイッチを使用してインストール・プログラムを実行します。

- `-i silent` インターフェース・モードをサイレントに設定する
- `-f <properties file path>` プロパティー・ファイルを指定する

例えば、32 ビット Linux 環境で IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver をサイレントでインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
setupLinux32-x86.bin -i silent -f "<properties file path>"
```

プロパティ・ファイルの絶対パスまたは相対パスを使用できます。パスを指定しない場合、プロパティ・ファイルは、インストール・プログラムと同じディレクトリー内にある必要があります。

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View URL

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View 接続 URL パラメーターについて、以下のテーブルで説明します。

表 1. URL パラメーター：

パラメーター名	必須/オプション	説明
DSN (ODBC のみ)	必須	IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View をシステム ODBC データ・ソースとして識別します。
DRIVER (ODBC のみ)	必須	ドライバ名。
PEV.HOST (ODBC のみ)	必須	IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository ホスト。
PEV.PORT (ODBC のみ)	必須	指定したホスト上の IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository にアクセスするためのポート番号。
UID	オプション	データ・ソース接続のための IBM SPSS Collaboration and Deployment Services ユーザー ID。JDBC の場合、ユーザー ID を、ドライバの接続プロパティで渡すこともできます。
PWD	オプション	IBM SPSS Collaboration and Deployment Services ユーザー・パスワード。JDBC の場合、ユーザー ID を、ドライバの接続プロパティで渡すこともできます。
PEV.PROVIDER	オプション	接続を認証するために使用するセキュリティ・プロバイダー。プロバイダーまたはドメインの指定がされない場合は、ネイティブの IBM SPSS Collaboration and Deployment Services セキュリティが使用されます。
PEV.SECURE	オプション	リポジトリーへのセキュア接続が必要な場合は、フラグを true に設定する必要があります。デフォルトは false です。
PEV.DOMAIN	オプション	リポジトリー接続の認証に使用される Active Directory のドメイン。
PEV.DESC	オプション	データ・ソースの説明。
PEV.DPD	必須	データ・プロバイダー定義のリポジトリー・パス。
PEV.DPD.ID	必須	データ・プロバイダー定義のリポジトリー ID。
PEV.LABEL	必須	データ・プロバイダー定義のバージョン・ラベル。
PEV.ENV	オプション	分析、操作、またはレポート作成のいずれの Enterprise View 環境を使用するかを指定します。デフォルトは選択されたデータ・プロバイダー定義に基づく値であり、ドライバで検証できないため、環境を指定することを強くお勧めします。

表 1. URL パラメーター (続き):

パラメーター名	必須/オプション	説明
PEV.AV	オプション	Application View のリポジトリ・パス。デフォルトは、選択された データ・プロバイダー定義 に基づいた値で、ドライバーによって検証できないため、Application View を指定することを強くお勧めします。
PEV.AV.ID	オプション	Application View のリポジトリ ID。
PEV.LOG_FILE (JDBC のみ)	オプション	使用する log4j ログ・ファイル。
PEV.LOG_LEVEL (JDBC のみ)	オプション	log4j ロギング・レベル。

JDBC ドライバー・クラス名は *com.spss.pev.driver.jdbc.PEVDriver* です。JDBC URL の形式は次のとおりです。

```
jdbc:pev://<server>:<port>;<parameters>
```

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View JDBC URL の例を以下に示します。

```
jdbc:pev://cds01:80;PEV.ENV=analytic;PEV.LABEL=LATEST;PEV.DPD=/JC/DPD;PEV.AV=/JC/AV
```

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View ODBC 接続には、DSN または DRIVER のいずれか、あるいは両方の指定が必要です。DSN を使用して ODBC 接続が作成される場合は、必要なフィールドはすべて、データ・ソース設定から指定されます。ドライバー指定を使用する場合 (たとえば、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View ODBC データ・ソースがシステムに設定されていない場合など)、すべての必要なフィールドを、アプリケーションがドライバー接続文字列で指定する必要があります。フィールドは次のとおりです。

- DRIVER
- UID
- PWD
- PEV.HOST
- PEV.PORT
- PEV.DPD または PEV.DPD.ID
- PEV.LABEL

注:

- データ・プロバイダー定義 は、リポジトリ・パスまたはリソース ID 、あるいはその両方として指定する必要があります。Application View も、パスまたは ID のいずれかとして指定することができます。リポジトリ ID を使用する場合、必要な値は、オブジェクト URI の英数字部分 (ac140f2817f156cd0000011580516f1c802e など) です。リポジトリ・リソース ID を使用することにより、オブジェクト・リポジトリ・パスが変更された場合にも、接続が保持されます。パスと ID の両方がドライバーに渡される場合は、ID の使用が試行され、失敗する場合は、パスへのフォールバックが行われます。
- ドライバーに渡されるユーザー名は、適切な形式の IBM SPSS Collaboration and Deployment Services ユーザー名でなければなりません。プロバイダー/ドメインが指定されていない場合、ネイティブの IBM SPSS Collaboration and Deployment Services のセキュリティーによってユーザーが認証されます。その他のセキュリティー・プロバイダーの場合、ユーザー・フィールドは、<セキュリティー・プロバイダー ID>/<セキュリティー・プロバイダー・ドメイン>/<ユーザー名> の形式でなければなりません。そうでない場合、個々に *PEV.PROVIDER* および *PEV.DOMAIN* パラメーターを指定することができます。

既知の制約事項

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View Driver を使用する場合には、いくつかの制限があります。

- UNIX ベースのオペレーティング・システムでは、BIGINT 型は、*numeric(19,0)* として扱われます。この結果として、精度を損失することがあります。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒130-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Software Group

ATTN: Licensing

200 W. Madison St.

Chicago, IL; 60606

U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

インテル、Intel、Intel ロゴ、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Centrino、Intel Centrino ロゴ、Celeron、Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、および Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アンインストール

UNIX ドライバー 8

Windows ドライバー 4

インストール

UNIX 4

Windows 2

[カ行]

概要 1

構成

サード・パーティーのデータ・ソース
4

Microsoft ODBC データ・ソース・アド
ミニストレーター 3

UNIX 5, 7

[サ行]

サード・パーティーのデータ・ソース 4

[ヤ行]

要件 1

J

JDBC 接続 9



Printed in Japan